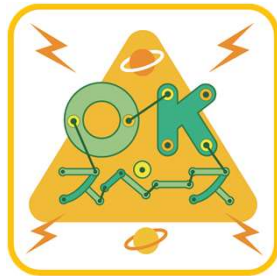


2021年度

独立行政法人福祉医療機構

W A M 助 成 事 業

成果報告書



切れ目のない発達支援のための
ファーストストップ

OKスペース



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人 I am OKの会



事業目的

気軽に立ち寄ることのできる相談の場、学びの場、ファーストストップの場を提供する

つなげるための、つながるためのファーストストップ

「OKスペース」

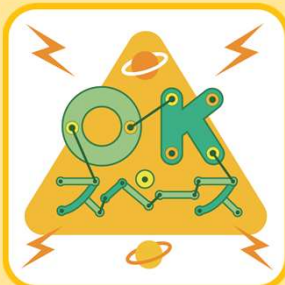


生きにくさ

孤独

育てにくさ

孤立



適切な
窓口

必要な
支援

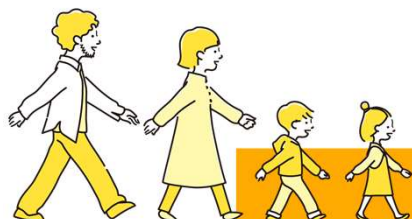
必要な
学び

行政
地域社会



自己肯定感アップ

個性を持って社会に貢献



発達段階を通じた、切れ目のないサポート

事業概要

切れ目のない発達支援のためのファーストストップ「OKスペース」

事業1: 相談ひろば事業

適切な支援につなげられない、発達に課題を抱える本人や保護者の孤立を防ぐ。

●おやこスペース

月3回 10時～13時
発達に困り感のある
本人と保護者
無料



●発達に関する個別相談

月2回 木曜・土曜
1コマ50分 × 1日3コマ
発達に困り感のある
本人と保護者
無料



事業2: 学びの事業

発達に課題を抱える本人と保護者が日常生活を安定させるための学びの場を提供する。

●保護者のための学びの場

- ・テーマ講座 年2回
- ・集中講座 年2回
ペアレントプログラム
ペアレントトレーニング

●当事者のための年間講座

- ・SST講座
月1回 年10回
小学生(学年別3クラス)
- ・青少年のためのグループワーク
月1～2回 年20回
大学生～成人

オンライン
でも実施

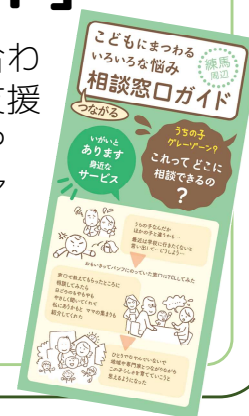


事業3: つながるための パンフレット 作成事業

ライフステージに合った相談先、支援先につながるのが容易ではない人たちや、どうしてもわからずに苦しんでいる保護者が、本人に合った支援や窓口をさがしやすくするための、情報提供を行う。

●こどもにまつわるいろいろな悩み 「相談窓口ガイド」

行政と地域情報を合わせた練馬エリアの支援先情報を、保護者や当事者の方を含む多様な立場の人に関わっていただいて作成する。

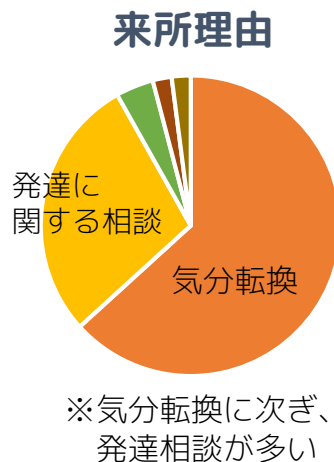
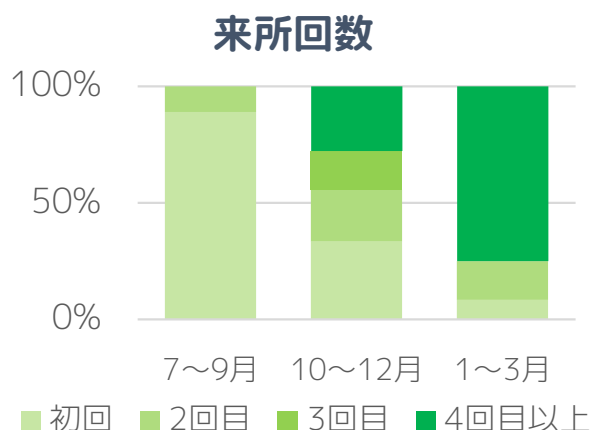


おやこスペース

発達に課題を抱える子どもと保護者の安心の居場所。

療育経験のある保育士2人が常駐し、発達に課題や生きにくさを感じる親子の相談に乗る。発達に課題のある子どもに、適切な遊具や器具を整備し、安心して遊べる場とする。

実施状況 実施回数：28回、来所者数(のべ)：87人 ※コロナ感染拡大により利用者数の制限を行った



利用者からの感想

- ・私の気分転換にもなったし子供も楽しそうでした。
- ・お友だちに手が出たり物を投げたりするので、児童館には行きづらく、先生にも相談出来るしとても有難い居場所です。
- ・痙攣を起こしたときに対応ができなかったり、ほかのお子さんとの関わり方がわからない時などに、先生に入ってもらえるだけでも、ひと呼吸置けて、冷静になれると思えた。

※3,4回目の繰り返し利用が増加

※気分転換に次ぎ、発達相談が多い

ポイント

- ・発達に課題のある子どもの行き場のなさを解消する（通常のお遊び場でのトラブルが多い）。
- ・子どもと共に気軽に来所でき、少人数の中で安心し、一緒に遊びながら相談できる。
- ・気持ちに寄り添って関わる。今現在の困りごとについて、一緒に考える。

効果・成果

- ・家庭でできる関わり方のコツを知って、子育ての困難感が軽減。
- ・孤独感の解消。居場所として繰り返し利用された。
- ・つながり先の紹介（子ども家庭支援センター、保健相談所、ペアレントメンター相談室等）。



発達に関する 個別相談

幅広い年代の困りごとに寄り添い、つながり先をともに考えるために。

臨床発達心理士が気持ちに寄り添い、つながり先の支援機関と一緒に探したり環境調整等を一緒に考えたりする。土曜日も設置し幼児～成人まで、保護者・親子同席・本人のみ、いずれの相談にも対応する。

実施状況 実施日数：60回、相談者数(のべ)：37人

当事者の年代



■ 3～6歳 ■ 高校 ■ 0～2歳
■ 中学 ■ 成人 ■ 小1～3

※当事者の年代が幅広い

相談内容

- ・ 障害、発達について
- ・ こどもへの対応方法
- ・ 支援の受け方
- ・ つながり先の相談
- ・ 進路、進学(高校が深刻)
- ・ 保護者自身のつらさ
- ・ 家庭内での困難感など

利用者からの感想

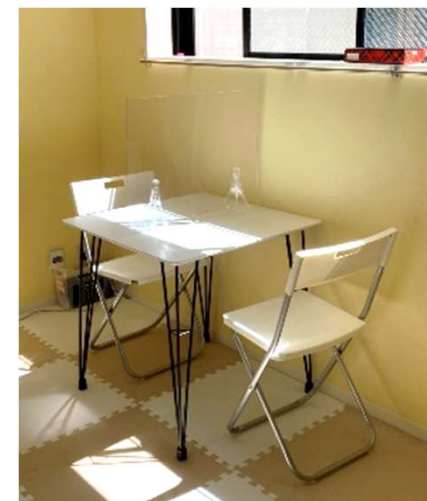
- ・ 第三者の専門の方とお話がゆっくりできて、また、色々情報を聞いて大変ありがたかったです。心が軽くなりました。
- ・ 大変満足。気持ちをほきだせる場所だから。
- ・ 話を聞いてもらえたり、考えが整理されたり、新しい気づきがあった。
- ・ 具体的な行動面のアドバイスがある。将来のイメージが持てる。私自身ができるようになっていたことを、ほめてもらい、認めてもらえた。

ポイント

- ・ 幅広い当事者の年代(発達に困り感のある方)の相談を受ける。
- ・ 当事者からの相談、保護者と当事者同席での相談を受ける。
- ・ 土曜日にも相談日を設け、当事者や働く保護者が相談しやすい。

効果・成果

- ・ 相談事業に関わる地域のネットワークができつつある。子ども家庭支援センターへの紹介、センターからの紹介。他に、心理カウンセリング、児童相談所、保健相談所、児童相談所等とも。
- ・ 気軽に相談できる場所の重要性。医療機関や行政は敷居が高いと感じる方の最初の相談の場。



当事者のための 年間講座

コミュニケーションに課題のある当事者に学びと居場所を。

コミュニケーションに課題のある当事者の方の学びの場所。知ると毎日が少し楽になる、コミュニケーションスキルを学ぶ。また、同じ課題を持つ仲間と過ごす、安心できる居場所を提供する。

小学生のためのSSTクラス

SSTとはSocial Skills Trainingの略。スモールステップでできることを増やし、自己管理能力、社会生活技能をアップさせる。医療機関や作業所、学校、職場等でも実施されている。

実施状況 実施回数：30回、参加者数：のべ91名

今年度クラス編成
小1,2クラス:4名 小3,4クラス:4名、小5,6クラス:6名

利用者からの感想

- ・幼稚園の頃から通っているが、雰囲気と同じで安心する。
- ・少人数で活動していただいているので、とても満足。
- ・体を使ったゲームが面白かった。自分と同じことに困っている子がいた。

ポイント

- ・臨床心理士2名が担当。保護者へのフィードバックに加え、状況により個別相談にも応じる。
- ・20畳の広いスペースを活用して、全身を使った活動を行う。

効果・成果

- ・仲間づくり、安心できる居場所。
- ・効果的な関わり方を知ることができる。



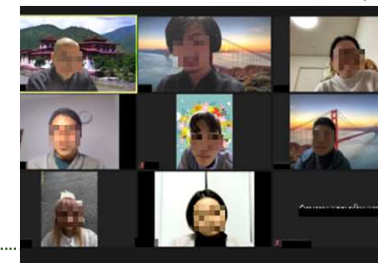
青少年のためのグループワーク

コミュニケーションに課題のある高校生から成人を対象に、自分について考えるワークを通して、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキルの向上をめざす。

実施状況 実施回数：20回、メンバー数：8名

利用者からの感想

- ・他にはなかなかない企画なので、本人たちも親も大変感謝しています。
- ・コミュニケーションのとれない息子にとって、同世代の子供達と集える唯一の場所で、本人も気に入ってずっと参加させて頂いています。
- ・自分の意見を自由に言えるので満足している。



ポイント

- ・支援が途切れがちな世代(中学生以上)へのアプローチ
- ・他者を認め、自分を肯定することができる。

効果・成果

- ・仲間づくり、安心できる居場所。
- ・効果的な関わり方を知ることができる。



保護者のための 学びの場

大人にできることって何だろう？
お子さんと保護者自身のために学ぶ。



① 発達に課題のある子どもの良さを引き出す 育て方

NPO法人 lamOKの会 理事長 林田道子

② 知っておきたい、練馬区の子育て支援関連 サービス講座

練馬子ども家庭支援センター 所長 橋本健太氏

📌 実施状況 参加者数：①5名、②28名

利用者からの感想

- ・改めて自分の子育てを振り返り、これからできることに取り組んでいきたいと思いました。
- ・練馬区の子育て支援サービスの全体像が示されて、困った時は一歩踏みだして相談するというメッセージが伝わってきた。
- ・行政側視点のアピールや説明が多く、支援される側、利用する側との距離を感じた。

📌 ポイント

- ・ニーズに応じた講座。何とかしたい！知りたい！に応える。
- ・意見交換、出てきたコメントを受け止める。

📌 効果・成果

- ・子どもへの関わり方がわかる。・前向きになれる。
- ・公的な制度、支援がわかりにくい、利用しづらい側面がある現状が明らかに。

ペアレントトレーニング (全4回)

ペアレントプログラム (全6回)

子どもとのよりよい関わり方を学びながら、日常の子育ての困りごとを軽減し、楽しく子育てできるよう支援する保護者向けプログラム。環境調整や子どもへの肯定的な働きかけの具体的な方法を知る。

📌 実施状況 参加者数：ペアトレ3名、ペアプロ3名

利用者からの感想

- ・子どもを注意することが少なくなり、自分の心に余裕ができた。子どもの切り替えもよくなってきた。
- ・宿題の種類を変えて色々学び、自分の考えがまとまり、客観的に見られました。
- ・楽しいので、6回で終了するのではなく10回位やりたかった。

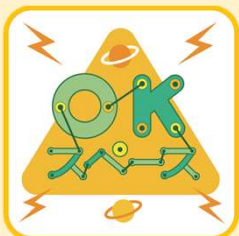
📌 ポイント

- ・体験型で、ワークも多く取り入れた内容。
- ・連続講座の中で参加者同士の関わり、悩みの共有が生まれる。

📌 効果・成果

- ・仲間づくり。・効果的な関わり方を知ることができる。
- ・学びながら実践し、子の変化を確かめられる。

事業を通じて



- ・相談ひろば事業
- ・学びの事業
- ・つながるパンフレット作成事業

関わり方が
わかった

支援の受け
方を知った

心が少し
軽くなった

人と
つながれた



虐待
防止

孤立
防止

発達障害を背景に、生きにくさ・育てにくさを抱える、
保護者とその子への支援に必要なこと

伴走型

- ・寄り添い、ともに考える心
- ・共感する力、傾聴する力
- ・家族の抱える課題・家族支援の視点を持つ
- ・保護者や本人自身の、援助を求める力(ヘルプスキル)を育てる

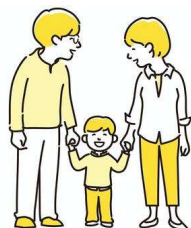
専門的な 知識

- ・SSTとは？感覚統合とは？ペアプロ・ペアトレとは？などの発達支援、家族支援の知識
- ・障害福祉サービス等事業所・障害児通所支援等事業所などの種類とサービス内容の把握
- ・発達検査の種類・対応できる機関の知識

コーディネーター力

- ・行政の制度や窓口を把握
- ・地域資源の把握
- ・つながる先とのコミュニケーション

おわりに



以前、ある母から「『練馬で生きる発達障害児子育てすごろく』がほしい」と言われました。ええっ？「年齢のステージごとにおこる課題と見通しと対応策とゴールへのたどりつき方」をすごろくのようにして教えてと。子の年齢が上がるほど、情報や支援事業は少なくなるし。まして家族支援は見えないし。そんな中、厚労省HPにて施策を調べたところ、ペアレントトレーニング、青少年グループワークやSSTが、発達障害児者および家族支援事業として掲げられているのではないですか。自治体での事業化がまだ遠い先なら、私たちがWAMの助成を得て、拡充させようと。今、終了にあたり、多くの母たちの不安と苦悩を受け止めました。ひきこもりや不登校、虐待抑止の線上にあることも実感できました。今後も当事者や家族が、孤立せず自ら地域とつながっていくパワーを得る手伝いをしたいと思います。



NPO法人 I am OKの会は、ユニークな子どもの発達に寄り添い、子どもと保護者の自己肯定感を支える活動を行っています。

2004iam@oknokai.net

